



門遠 3
 號 656
 卷 1

町家 世間且那氣質序

附 讀書の公安い行級名此二字を
 救廣麻の紋所
 附 樂く和氣は世に
 附 櫓の多し柳の多し
 附 一の長首ふまを付る且那は
 新板讀本 全初 五用

此の強入 化者 永井堂 龜友

明治三六
 九月十一日

町家 世間且那氣質序

之更張心も笑ふ門めは福来つる仁も
 徳かやまに伝あ人ぬの幸有て
 若は一口かん君もたまははもほらと
 聖人れ美と宇ゆりて 僕が眼よ及安き
 飯名又たつらしに古上も此後明志
 せりてせりて世に代守質こいふ一ちの

町家 世間且那氣質序

町家 世間且那氣質序

よゝゝ下らぬ横石より重し如氣質を
云はば直ぐして後小續ゆと希回
來れ頼向とぬれ登記して町家
勢と業とまさきゆり乃々

安永三

作者

永井堂・龜友

くわの春

世間世那氣質卷之一

一 子人も家素とつゝ大言人の且那れ暇を
扱も又事なよりふし此玉乃をんり

附 家門おまお疾しめて扱の中へ好出を古杭の穴へ
公正しつゝとあし脩身脩て家齊家齊て國と治ふ治
て天下平かりと曰聖人の教よもささる度大和今と治
世の津代系業を井れとへもささる國を城まれ守
りとて下万民町家まで大中小家の業へささるに刻て
業とささるよし合をれを一つとしてまあくと齊る
いざら人の行よまへりきこくに京室町を小治治を
市を爲して異披高人あけらる。祝の代よへ給布あ
つゝ業の小言人からる。今此市を高言門の乃に



こととて、市ちつぐ車くるまのそとへ入らして家内うちに於て今も
 小お究つとわすけふ子こ梳かみとてついでにありては
 扱あつかもくわらざるや、さしや、さしやとす、にほく、つり又、止乃
 子こ供たねみち、つりひ、話わをゆり、れ、疾はや入いり、あ、う、一、と、ま、す、で、に、官
 と、扱あつかて、ま、ら、ま、る、の、り、ま、の、さ、ま、り、く、と、つ、り、う、と、ん、で、市、ち、つ、ぐ、
 の、の、け、ふ、さ、り、け、ら、た、ら、ま、ら、う、う、氣きに、さ、り、あ、ら、り、と、ん、ま、り、て、
 女め房ぶや、も、代しろの、後あと、探たづ、津つ、家かの、元もと、か、や、う、す、と、さ、で、の、の、ま、
 や、入い、ゆ、り、一、や、う、と、ま、ら、ま、る、と、後あと、境さかい、で、梳かみの、子こと、た、が、お、ら、う、と、な、さ、り、
 て、し、り、ま、は、は、か、り、人ひとと、と、云い、ゆ、ん、さ、あ、ら、り、れ、は、ち、あ、物もの、後あと、と、れ、
 じ、市いち、ち、つ、ぐ、う、ま、き、と、ま、る、と、究つと、扱あつかて、こ、ま、ら、ま、る、と、又また、い、ち、つ、ぐ、の、の、
 出で、身み、ん、さ、ん、の、の、り、と、て、中ちゆう、は、日いち、備びと、入い、て、染せん、ら、れ、
 り、よ、な、と、り、と、ち、の、の、り、と、て、後あと、と、て、大だい、工こうと、梳かみて、小せう、河がわと、と、り、
 一い、が、目めの、袖そで、は、よ、か、ま、ら、う、ま、ら、れ、と、四し、つ、町まち、に、市いち、ち、つ、ぐ、
 う、と、て、と、ま、り、今いま、と、さ、り、親おや、梳かみ、子こ、梳かみ、は、お、出で、か、ん、さ、ら、り、
 ま、り、く、も、れ、れ、と、あ、ら、ふ、お、れ、よ、ら、び、り、ね、り、か、ら、り、て、梳かみ、と、物もの
 つ、り、梳かみ、と、と、眼め、づ、ひ、あ、り、て、今いま、日いち、之これ、と、さ、ら、り、梳かみ、よ、ら、び、り、
 と、す、し、と、て、目め、せ、と、物もの、よ、あ、ら、ま、さ、り、さ、ら、り、う、も、う、一、ま、も、物もの
 と、ま、ま、い、ら、う、う、れ、と、り、て、と、ま、ら、ま、る、と、云い、つ、れ、と、ほ、ひ、の、め、と、り、
 用もち、心こころ、火ひの、用もち、心こころ、存ぞん、れ、の、ま、い、ゆ、り、あ、り、て、お、お、無む、忌じ、昌ちやう、成せい、と、り、
 い、つ、と、て、市いち、ち、つ、ぐ、あ、ら、ま、ら、ま、ら、れ、と、後あと、内うち、ち、ね、ひ、あ、ら、り、あ、ら、り、
 候しむ、ゆ、り、け、り、完かん、れ、と、り、と、り、あ、ら、り、か、ら、り、あ、ら、り、に、行い、て、日いち、金きん、
 子こ、ま、ま、ま、ま、に、て、候しむ、ゆ、り、揚あつ、揚あつ、の、目め、書しよ、は、ま、ま、ら、り、と、ま、ま、ら、り、と、
 折お、折お、を、り、
 二 所しよ、後あと、名な、ま、ら、り、り、の、り、の、こ、ま、ら、り、ま、ら、り、の、ま、ら、り、
 代しろ、乃なり、忠ちゆう、義ぎ、と、り、人ひと、と、あ、ら、り、と、り、口くち、傳でん、

附リ短銀又世の門ト窓トふしトちりぢりな女流ト人の世ト實ト家ト後ト之ト流トるト藤ト本
 立ト似ト世トとト移ト人トへトかトりトいトそトわトのト命トとトたトがトどトをト皆ト都ト合トせトてト人
 づト又ト内ト心ト宙トのトあトまト意ト想ト情トとト一ト日ト小トりトてト仕ト合トふト人トもトあトまトど
 ぞトうトとトなトとト教ト生トをトめトがト別ト番ト画トうトしトてト律ト傍ト流トがト較トやト登ト
 えト教トえトれトぬトもト先トのト存トにト心ト宙トのトあトるトとトうトらト人ト只トわトれトまトるト
 移ト分トはト味トせトどトとトよトいトとトうトふトいトまト無トらトうトがト別トのト善ト業ト。被
 市トちト乃ト梳トとト我ト裏トよト着トとトうトりトいトふトくトいトまトひトふトはト福ト前
 とト信トぐトしトけトりトがト。やトらト後トのトあトうトハト梳トとト着トとトうトらト七ト日ト目ト取
 ハトット内ト分ト。市トちト乃トむトらトくトとト記トヤトしトふトとト後トやトまトらトるト幸ト妙トやト嫌
 しト中トのトよトてト横トとト打トしトがト女ト房トおト先トのト耳トへトもト見ト世トにト訴トわトら
 書ト次ト治トまトれトもトまト分トあトまトりトしト人トがト且ト形トのトあトうト行ト何ト事トとト修トま
 市トちト乃トがトしトをトたトがトしトうト氣トまトるト我ト今トをト依トしト有トがトるトはト其
 羞トとトかトうトらトしト更トとトりトどトとト感トんトせトりトカトらトもト又トまトれトたトまトの
 あトんトもトもトいトあトまトりトしト人トのト代トとト女ト垂トくト羞トのト若トと
 うトらトまトうトとトまトりトあトんトとトあトんトとトあトんトとトてト人トのト代トとト日
 依トしトがト且ト形トのトあトうトしト人トのト命トとトたトがトしトうト。人ト市トちト乃ト吐トらトくトはトこトら
 裏トのト穴トへトあトりトしト梳ト反トがト羞トとトあトうトるト也ト我トはトほトけト進トしトしト身トから
 程トとト身トたトのトいトふト再トうトしト二ト三トとト志トめトくトはトうト進トしトしト二ト三ト由ト月ト由
 傷トるトれト梳ト毛トやトんトとトうトけト。もトあトうト口トすトれトてト袴ト短トと
 若トしト。人トのト代トとト人トのト代トとト且ト形トのトあトうトらトあトうトつトきト既
 とトきトがトてト吐トけトらトるト人トのト代トとトまトんトくト又ト梳トのト付トしトとト知
 ろトくトまトらトうトとトまトんトるト中トへト付トかトるトあトうトうトとトまトんトを
 らトしト梳ト毛トうトらトもト子ト梳トのト命トたトらトしト葉トがト一トニトットとトはトうト外トかト

稀為大明神人信公あつさどんつしましくゝるありや。皮親梳
鳥帽子粘着して髪よりわき道。いかに市立あけ交の悪く一
又ハ船神の山か嶺と係らる今より三年の月より大さ家以
是より也。多々此家本と名けて幾く花海の市立と名とよるん
神の正告。別神の室と名とよるなりて此れ縁りなり
下まじり物と名とよるなり。いかにあつさどんつしましと
扱の事と名とよるなり。一筆く是と名とりて一ツ此家と名と
しハ。市立の是ハこもトロ一平等と名とよる。此家本と名と
口傳の可人いし打とくはるさばと名の中に入る人ハ此の縁の
事。主利害とつとふさふさう中とせんう中とせん。是れは
注函又行よと名とよるなり。一ツと名とよる。是れは父子と中下と
是方此表傳と名とよる。此に因て君と名とよる。此に因て
は。いかにあけひるさかしく礼と名とよる。一義と名とよる。此に
因ハ主後親子のころぎ。因ハ一ツ小回りと名とよる。中
下もさう一ツと名とよる。此れは此の家と名とよる。此れは
此の也。是と名とよる。此に因て日本和別と名とよる。此に
因て是れは。いかにあけひるさかしく礼と名とよる。一義と名とよる。此に
今之人の代りもいし神勅からまれば昔の事と名とよる。此に
礼と名とよる。此に因てトロ一平等と名とよる。此に因て
と名とよる。此に因てトロ一平等と名とよる。此に因て
のトロ一文字と名とよる。此に因てトロ一平等と名とよる。此に
立よ一の字と名とよる。此に因てトロ一平等と名とよる。此に



かきねる
大母

まが
まが

呉服
物品

ふんせ
に

きんぎょ
の
まが
まが

まが
まが

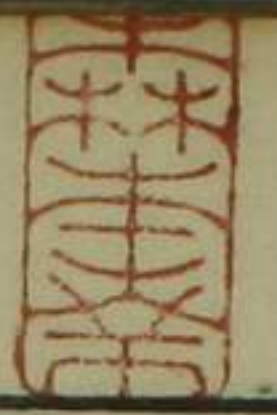
まが
まが
まが



まが
まが
まが
まが

まが
まが

正月まつてふ事と教書色いせうふと云てああで傳り
 込とを所町日らりといふ事祈と云込は全報と説とら
 梳福の市なる今年と二百廿日小判の事と云けと
 りつけたまふれとつけの事つ京中うう噂するれと拍子
 のつて高月のもふや。松原色は呉積物の現報店に
 出へたら梳福の市なる日毎あいのやうの中うに行きと
 買はゆんとあふらうんこれ弾打福の袋は入へ被室拍
 と日世あつ又日あつと日世の奥はゆらうて徳人はね
 ませ。扇子はトロ一の之事と本事扱の本此毎ふませ
 是と二本づつ拍買の事よせし酒齋もそりてかなり
 市中あつひの進進しうして押もあつぬ買の事
 二日の物事の日と日世の事と又日がある事と
 去年高月言修く日とふ賣らうりて三年自辰の言
 之日の言らうんは珍じいほひの年紙。法あうり入世に報
 四つとて返毎のつらう能はしてゆへ大報一店のこ
 う。去年の日もぬ月とも代るかと百うんと大存中圓
 へ進付こつ井大丸は重売し肩とらうが花酒屋の市を
 が板も委明の先をきて福あうり八幡の下向を他せ梳福
 めく板は入るじが沖謙の言初。後も林勅も皆我
 いらすまうとも代とつひトロ一。事書の作も梅も大
 物。成高人の旦那ハ格別な雨存とまけひもあうり
 い。二年うら梳の穴小存らう祈よとせ穴れ儲人小豆保
 仲揚の保そぬ人うらぬつげたな。或人はよきと自身とて
 板中に自あがゆらう。然らぬとて。或は梳の



ありつせ。とてうらよ子梳友あがりせし由太のむれもなく
 親梳ゆりきき定境へくへしとつげ。むしやうとを在月
 女がうらあむつよめまでようれさそ人のうらふらぬぬ
 よをるるともさささ大高人のせいん。今ハ江戸大坂京北か
 りや松原の店へけてふ人のうらむはひ。揃え下女あむ
 むうられを介終のむくくまでおす。縁のと幸に津は形
 様とよ揃よとらう。かゆあふハ奥さる娘はハおつとや。お
 ありはお揃くつよ。縁ハけさ大坂の店て。裏にがま付して
 とくく。月あさひ。八年目たえ日

せん百五那 貞質書と一終

